

1 本年度の重点目標

<p>1 学習指導(確かな学力の育成)</p> <p>(1) 基礎・基本の定着と、授業の質の向上(生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業やICTを活用した授業)による授業改善と生徒の学力向上を図る。</p> <p>(2) 自学・自習の主体的な学習態度を養い、家庭学習習慣の確立と内容の充実を図る。</p> <p>2 生徒指導(豊かな人間関係と社会的に自立する力の育成)</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立と、他を思いやる心、勤勉奉仕の精神を育む教育を推進し、共生社会に生きる生徒の資質を高める。</p> <p>(2) 規範意識の醸成に努め、事故や盗難、いじめ等のない安全安心な学校づくりに努める。</p> <p>(3) 挨拶や端正な制服の着用、交通ルール遵守等、地域社会から評価される態度と整容を身に付けさせる。</p> <p>(4) 部活動、学校行事、生徒会活動等へ積極的に取り組ませる。</p> <p>3 進路指導(自らの生き方を考え主体的に進路を選択する態度の育成)</p> <p>(1) 面談等を通して自己理解を深めさせ、自己の生き方を主体的に探究する「志教育」を推進する。</p> <p>(2) 生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の一層の推進に努めるとともに、全教員が最新の進路情報を取り入れる研修の機会を設ける。</p> <p>(3) 国公立大学や難関私大等に現役合格できる学力と第一志望を最後まで諦めない強い意志を養う。</p> <p>4 保健衛生・安全教育・防災教育(命を守る力と共に支え合う心の育成)</p> <p>(1) 生徒の心身の健康保持と体力増進を図る。</p> <p>(2) 交通安全の意識高揚(特に自転車通学マナー)を図り、事故の未然防止に努める。</p> <p>(3) 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携して危機的状況にも対応できる学校を目指す。</p>

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 基礎・基本の定着	A	今年度の「みやぎ学力状況調査」の結果から、成績が例年並みまたは、例年よりも上回っていることが分かった。指導内容や家庭学習内容をより一層精査し、基礎学力の定着に引き続き取り組む。	A	A
	2 授業の質の向上	B	ICTの活用を通して、指導方法の改善を重ねることで、生徒が深く考えたり、他者と対話したりする力を伸ばすよう取り組んだ。今後は1人1台のICT機器活用を見据えて、ICTを活用して、一人一人の学びを個別最適化するための研究を重ねていく必要がある。	B	B
	2 家庭学習習慣の確立	B	今年度の「みやぎ学力調査」の結果を見ると、生徒の家庭学習時間の確保が十分ではない。スマホ利用時間と家庭学習時間が反比例の関係になっていることから、スマホ利用も含め、生徒自身に時間の使い方を振り返らせるなどの具体的な対策が必要である。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	<p>新型コロナウイルス感染症対策でオンライン授業を行うなどの対応を迫られる中、教職員が授業の質を低下させないような努力・くふうを重ね、今後の展望をよく考えていることがうかがえる。</p> <p>学習意欲を高めるためには、授業の質の向上はもとより、体系的・系統的なキャリア教育が必要と考えます。現在の学びと将来の進路との関連を生徒に意識付けることが大切であり、生徒に正しい自己理解を得させることが学習意欲を向上させることにつながると考えます。</p> <p>各学年で個人面談等を実施しているとは思いますが、担任と副担任、または進路指導部の先生方が連携し、面談回数を増やすなどさらに充実させてほしい。</p> <p>今後は、ICTの活用が増えます。授業の質に記載されていますが、ICTの活用による「他者と対話する力」を伸ばすことは、ある意味難しい取り組みかも知れません。大変興味深いもので、より具体的に取り組みを評価していただきたいと思えます。</p> <p>ICTに関しては首都圏に比べればまだまだまだ整備が進んでいないこともあります。折角ある端末をもう少し工夫して授業に生かしてほしい。</p>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	1 基本的生活習慣の確立	A	生徒対象アンケートにおいて、遅刻や欠席をしないようにいつも心がけているか95.0% 制服を規定通りに着用できているか98.2% アンケートによる自己評価の高い回答が得られた。これまでの継続した指導に一定の成果があったと考えられる。今後も生徒の自覚が行動につながるよう指導に努めたい。	A	A
	2 規範意識の醸成	B	盗難等の事故報告もなく、先生方のご指導・ご協力のおかげで概ね達成できた。今後も毎月行う学校生活アンケートなどをとおして継続的に指導していきたい。	A	A
	3 特別活動への積極的な取組	B	例年と違う状況ではあったが、先生方の御理解と御協力のおかげで感染防止対策をしながら実施することができた。ただし、有意義な学校行事で保護者62.9%になっているが、学校の様子を知らない方が多いと思われるので、HPなどを通して広報活動していきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		<p>新型コロナウイルス感染症対策を適切な形で施すなど、学校行事や部活動等における教職員の尽力により、基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に関して概ね良好な状況が保たれたといえる。</p> <p>基本的生活習慣及び規範意識等は、先生方の日々の継続した指導により良好な状態にあると捉えています。学校経営方針に「社会に貢献できる有為な人材の育成に努める」とあります。身近なことで社会に貢献できるのは挨拶の励行と考えます。校内はもとより学校周辺地域でも積極的に地域に元気を与え、泉高の更なるイメージアップを図ってほしい。</p> <p>いじめ防止については、教員側からの指導だけでなく、どうしていじめは許されない行為なのかを生徒本人たちにも話し合わせ熟考させる必要があると思います。</p> <p>コロナの対応など、難しい環境ではありますが、小中学校の保護者も同様に「学校が遠くなった」という言葉を耳にします。興味を持っていかれるようなHPの発信に工夫をお願いします。</p> <p>高校に在学させている保護者の学校への関わり意識が低いように近年感じています。コロナ禍中でもあったためより薄く感じます。より学校からの発信が大切だと思います。</p>			
進路指導	1 自己理解と志教育の推進	B	1, 2年における夢ナビライブへの参加等今年度はより具体的に将来像を描ける場を設けた。生徒による学校評価4(進路目標の明確化に向けた適切な指導…)の回答はおおむね高評価であった。	A	B
	2 系統的・組織的な進路指導の推進と研修の設定	B	各学年で進路情報を出しており、定期的に情報提供に努めた。生徒による学校評価1, 良く当てはまると回答した割合が昨年度より約5%改善した。一方で1, 2年の進路講演会がコロナ禍の影響でできなかった。	A	B
	3 高い進路目標を達成できる柔軟な思考と強い意志の養成	B	模試に対する意識は確実に高まっているといえる。90%以上の生徒が模試の提供が十分になされていると回答している。模試の分析を通じた自己改革力育成が今後の課題である。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		<p>次年度も継続した取組みを期待します。「with コロナ」が当たり前になっていく中で、これまでとは異なる講演会等の開催方法を考えていく必要がある。自己改革力育成の取組みの具体化を実施してください。新型コロナウイルス感染症対策のため、進路講演会が開催されない中、進路情報のオンライン配信等で適切に対応しているといえる。進路情報の提供のしかたをさらに検討すること、その情報を生徒が的確に利用できるような具体的な指導が行われることを期待する。</p> <p>模試では自分が受けた科目が受けられるような配慮はなされているのか？全員が一律でなくても、進路が決まっている子どもには工夫した取り組み方が必要ではないか。</p>			

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健・安全・防災	1 健康保持と体力増進	B	学校評価において「学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる」では、保護者の88%、生徒の91%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も健康の保持増進に努めていきたい。	A	B
	2 交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	B	自転車に関する交通事故報告が12月末時点で17件(昨年18件)あり、自動車に関する事故6件(10件)、自転車同士8件(昨年3件)、人との接触2件(昨年2件)、自損事故が1件(3件)であった。事故後の対応についてはいずれも適切に処理されていた。6月に1年生対象の交通安全講話を実施しており、交通ルールや自転車乗車マナーについて、気づき、考えてもらうことで交通ルール遵守や自転車乗車マナーの向上に今後もつなげていきたい。☒	A	B
	3 防災教育と避難訓練の充実	A	今年度もコロナ禍の影響を受けながらも、感染対策をとりながら予定していた2回の避難訓練を実施することができた。長年の懸案事項であった地域防災組織との連携について、今年度は7月の避難訓練時に地域防災担当者参加していただき避難所開設訓練まで行うことができた。今後も防災行事を活用し、災害に対する意識の啓蒙を図り、地域防災の一翼を担えるよう連携を推し進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	<p>交通安全講話は、2年生、3年生も対象とすべきと考えます。この種の講話は繰返して行うことが肝要と考えます。また、地下鉄泉中央駅の地下通路や駅から学校までの歩道の歩き方についても、定期的に登校時の指導をお願いしたい。地域防災組織との連携への取組みを開始できたことは評価すべき内容と考えます。コロナ禍においては、健康観察、衛生環境の整備等、日常的な点検活動に努めることは大事なことで捉えています。</p> <p>防災教育については、東日本大震災後10年を経過しているため、風化させないように、語り部等の講話を聞かせるなど、命の大切さを生徒に考えさせる機会を設けてほしい。</p> <p>健康保持と体力増進は、保護者・生徒のいずれも高い評価をしている。自己評価はAで良いのではないのでしょうか。</p> <p>交通安全は、事故後の対応に問題がないとしても、事故件数が少ないとは言えないのではないだろうか。もう少し安全意識を向上できるような工夫が必要ではないかと思えます。</p> <p>交通事故については年々賠償金額も一般的に上がってきており、全学年通して無事故への意識教育が必要だと思えます。地域連携については、毎年の恒例として何かしら進めてほしいです。</p>				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 授業の質の向上	共通テーマに基づく研究授業を実施し、ICTを活用した授業の指導方法を改善する。オンライン授業と対面授業におけるICTの活用について、特に評価場面についての研究を進める。
② 特別活動への積極的な取組	地域連携を進めるためにも生徒の活躍場面を適切に設定するとともに、保護者及び地域に確実に発信する。情報発信として学校HPの積極的な活用を推進する。
③ 交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	生徒指導部通信の定期的な発行や交通安全教室を通して安全教育を実施するとともに、教職員全員での街頭指導実施により、教職員の地域理解の機会を作り、危険を察知する力を日常的に指導する。